

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300823
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホーム ヴィラ サフラン
訪問調査日	平成 20 年 1 月 18 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 21 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300823
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホーム ヴィラ サフラン
所在地	鹿児島県鹿屋市郷之原町 12584番地 (電話) 0994 - 42 - 7220

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年2月21日

【情報提供票より】(平成 19 年 12 月 13 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 12 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5 人 非常勤 6 人 常勤換算 5.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建て	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(平成19年 12 月 13 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	81 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白浜外科・小林クリニック・武田歯科
---------	-------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道220号線鹿屋バイパスの郷之原トンネル近くに位置し、見晴らしの良い自然豊かな高台にある。別荘のようなたたずまいで隣接のデイサービスセンターとともに建っている。ホーム内は明るく落ち着いた雰囲気である。職員は全員消防署で普通救命講習を修了し利用者と家族に安心を提供している。又、重度化や終末期の利用者のターミナルケアもされた経験がある。職員同士も協力し合い利用者を受け入れて、穏やかでゆったりした生活が営まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、改善点は特になし。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価に取り組んでいる。今回の外部評価で見出された課題について報告し早急に対応していく予定である。</p>
	<p>重点項目</p> <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>主な討議内容はグループホームの活動報告、市からの指導、助言、家族の要望等である。運営推進会議で取り上げられた検討事項、家族の要望は早急に日々のケアに取り入れている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の暮らしぶりは、毎月1回のサフラン便りで報告がなされ、健康状態、金銭管理の報告もきちんとなされている。職員の異動については、家族の面会時、紹介されている。家族等が意見・不満・苦情を職員、外部者に安心して表せる機会をつくり、得られた意見をサービスに反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホーム自体が地域から孤立することなく、地域の行事や祭りに参加し、又、グループホームの行事に地域の方々を招いたり、ボランティアを受け入れたりして地域との交流がある。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方に貢献できればとの思いから開設されたグループホームである。これまでの理念を見直し、地域とのふれあいを大切にして、すべてを考えるとこの事業所の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回カンファレンスで理念に基づいて話し合っている。新しい入居者や新しい職員があった時理念を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所のアパートや地域の方へ防災の協力をお願いしている。敬老会、餅つき、開設記念日に地域の会長さん、地域の方々に声かけをしている。ボランティアの受け入れもある。地域の手芸教室に出かける入居者もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組んだ。何か問題があった時はカンファレンスを頻回にして、ケアに活かすようになった。前回の外部評価では改善点はなかった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、事例紹介、家族の要望、市からの指導助言等がテーマとなっている。意見を活かし災害時地域の方々にも協力していただけないかお願いし、連絡先も連絡網に記入させていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからない事があった時相談している。市の福祉課から空室状況等の情報提供の求めがあった時応じている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりについては毎月1回のサフラン便りと金銭出納帳のコピーの送付で報告している。健康状態については家族が病院受診に同行しなかった場合、その都度家族に報告している。職員の異動については、面会時紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情の方法や機関について説明を行い、またホーム玄関に相談箱を設置している。面会時にも意見を聞きすぐに取り組みケアに活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動や離職があった場合、新任職員が早く馴染みの関係ができるように勤務表の作成時に継続勤務になるように注意が払われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があった時職員の希望を取り入れて研修に出席してもらっている。研修後は全体会議で報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時は同業のグループホームの見学に行き、交流を持つことによりサービスの質の向上に取り組んでいる。又、市内の連絡会で実施される3ヶ月に一回の研修会では、研修・事例検討等質を通じてサービスの質に向上努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>やむを得ず、すぐに利用になる入居者が多く、入居当初は毎日、家族に面会に来てもらっている。また、自宅への外出で落ち着いて頂いている。早くなじみの関係ができるように入居前に職員から自宅に訪問してもよいか伺っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>餅つきの時、お茶の時間、昼食時、昔の暮らしなど教えていただく場面がある。日常の会話の中で4字熟語の正しい使い方など教えていただく時もある。又、朝起きるのが遅い入居者に声かけをされる方もあり、時には職員が入居者からいたわってもらう場面もある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>時間はかかるがお話をしたり、お部屋で語りかけたりして把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成は職員全員で作成している。又、家族には担当者会議への出席を促し電話でも希望を聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。骨折等で状態が変化した際には検討見直しを行っている。又、申し送り後のミニカンファレンス時入居者の状況変化の意見を出し合っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の支援を行っている。どうしても必要な場合は家族にも同行していただいている。又、結婚式場、法事がある所、家族の入院見舞い等入居者の希望を受けて送迎している。食事療法が必要な入居者の場合栄養士と話し合って食事の支援をしている。訪問看護の利用もしている。		本人や家族の希望により、いろいろな支援をされているが、認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして自宅で暮らす認知症の方にデイサービス、ショートステイ等支援できるように、今後職員全員で事業所の多機能性についての学習を期待します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診になっていて受診時はサマリーを持参する。家族への説明が必要な時、精神科受診時は家族に同行していただいている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	往診、訪問看護と連携し家族とも十分な話し合いをして方針を共有している。重度化や終末期の入居者の介護を実施している。		かかりつけ医、訪問看護師、家族、職員と十分な話し合いがなされているが、入居者に関わる人が納得できるように意思確認書を作成されることを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護職としては常識であるから徹底して指導している。人前でのあからさまな介護は見受けられない。又、ホーム便りに掲載している写真は口頭で承諾していただいている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事の時、年末年始にお酒をたしなんでいただいている。毎日入浴できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒に食べている。献立は入居者の希望を聞いて取り入れている。又、入居者の力量に応じて、盛り付け、配膳、下膳、味見等していただいている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる。入浴を拒む入居者に対しては職員が上手に誘導して促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞を読んだり、時代劇、歌番組のテレビを観る事、食べる事などが楽しみである。洗濯物たたみ、テーブルふき、牛乳取りなどしていただいている。時にはウッドデッキでお茶を楽しんでいただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲の散歩や毎月1回ドライブに出かけている。また、慰霊祭に全員で参加し、おにぎりをもって花見、みかん狩りなどにもドライブを兼ねて出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関に鍵をかけずに自由に出入りができる。居室には鍵をかけていない。一人で外出される方には後ろから付いて行って見守りをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の方と一緒に火災避難訓練を実施している。特に夜間を想定した避難訓練も行っている。非常時の場合ボタンを押すだけで消防署に直結する連絡システムが整っている。地域の方々にも協力をお願いし出向いている。台風通過の予報があれば食料など準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の指導を受け、1日の栄養摂取総量は1600kカロリーをめやすにしている。一人ひとりの摂取量を把握し記録している。糖尿病の方、きざみ食、ミキサー食など入居者の状況に応じて支援している。</p>		<p>後期高齢者の脱水症の頻度が増加しています。水分不足がおこらないよう、職員全員が知識や意識を持ち入居者一人ひとりが必要な水分が取れてさらに1日の飲水量がどのくらい取れているかの把握、記録を望みます。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は家庭的で入りやすく、ホーム内は幼稚な飾りつけは一切なく和風の広々と落ち着いた雰囲気である。不快な音、光はない。季節に応じたお供え餅、七夕かざり、クリスマスの飾りなどしている。ソファのコーナー、畳のコーナー、ウッドデッキと居心地の良い空間を整えている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド、タンス、イスはホームで設置している。使い慣れた布団、なじみの写真、時計、鏡台、衣装ケース、タンスなど持ち込まれてその人らしい居室づくりがなされている。</p>		